

開会 平成29年2月24日
閉会 平成29年2月24日

足利市総合教育会議

足利市教育委員会

平成28年度第2回足利市総合教育会議会議録

1 開催日時 平成29年2月24日(金)
開会 午後3時30分 閉会 午後4時30分

2 開催の場所 足利市役所4階 特別会議室

3 出席者

市長	和泉	聡
教育長	若井	祐平
教育委員	櫻井	淳子
教育委員	市橋	雅子
教育委員	菊地	義典

4 会議出席した事務局職員

総務部長
教育次長
行政管理課長
教育総務課長
生涯学習課長
教育総務課庶務担当総括主幹
教育総務課庶務担当副主幹
生涯学習課社会教育担当社会教育主事
教育総務課庶務担当主査

5 傍聴者 1名

6 会議日程

日程第1 議題(1)
家庭教育における課題について

7 議事の経過

○ 開会

○ 和泉市長あいさつ（要旨）

制度が発足して実質的にスタートとなった前回第1回目の総合教育会議では、教育現場が抱える課題の共有ということで、認識を皆で共有することができた。特に、市の補助職員の現状等を説明してもらいながら、様々な子ども達の状況の把握やそのための学校への支援体制等について意見が交わされた。第2回目の本会議においては、「家庭教育における課題」と題し、足利市の家庭教育における課題を共有したい。私自身も市長就任以来、市長塾や家庭教育懇談会等の場に、ほぼ皆勤でお邪魔して、まちづくりに対する私の思いを語らせてもらうと同時に、家庭での教育の在り方をわかりやすく、身近な問題として捉えてもらえるように、私なりに工夫して話をさせてもらっている。「原点となった親からの語りかけ」というような題で話をさせてもらっている。家庭は子どもの将来や人格を育てていく上で非常に重要な役割を担っている。家庭の教育と学校現場の教育が噛み合っこそ、子ども達が育っていくのだろうと思っている。本日は、限られた時間の中であるが、今年度実施された家庭教育懇談会の結果、アンケート結果等も参考にしながら、家庭教育における課題、保護者、地域のニーズ等を共有して、家庭、地域ぐるみで子どもを育てていくための方向性を模索したいと考えている。

○ 若井教育長あいさつ（要旨）

本日の総合教育会議は、市長からも話のあった「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいて行われるが、家庭教育における課題ということで今日は開催される。特に家庭教育を考えると、家庭のあるべき姿が足利市の教育目標の中に謳われている。紹介すると、一つ目は、愛の場、憩いの場でなくてはならないと謳われている。言い換えれば、家族団らんで、温かな潤いのある場でなければならない。二つ目は、学習の場とも謳われている。子ども達にとって基本的な生活習慣、道徳心、良いこと悪いことを判断する力を学ぶ場である。三つ目は、人間関係を育てる場と示されている。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、子ども達、それぞれの家族の立場を尊重し合う人間関係を育てる場。最後に、宗教心を育てる場と言っている。これは、動物や植物を愛する心、あるいは祖先を敬う心、あるいは命を大切に、そう

いった宗教心を育てることは、家庭にとって大切な役割であると示されてる。こういったあるべき姿が示されているわけだが、こういった姿に照らし合わせながら、今の本市の家庭教育の課題などを出し合いながら、今後の方向性が示されればありがたいと思う。

○ 日程第1 議題(1) 家庭教育における課題について

市長

それでは、最初に、(1)「家庭教育における課題について」を議題としたい。参考資料の平成28年度家庭教育懇談会実施結果報告書に基づき、家庭教育における課題等の傾向について説明をお願いしたい。

事務局(生涯学習課長)が資料「平成28年度家庭教育懇談会実施結果報告書」に基づき、家庭教育における課題等の傾向について説明を行った。

市長

今、担当課長からは家庭教育懇談会に絡む中身を特に筑波の例を出して説明いただいた。一つは家庭教育を語る場合、スマホ(スマートフォン)の問題、スマホとどう向き合うかは避けて通れないのだろうと思っているが、委員のところは何年生だったか。スマホを持っていますか。

委員

中学校1年生の長男と、小学校6年生の長女がいるが、スマホは持たせていない。本人も持ちたいと言っていないので、個人のものは持っていない。ただ、たまに親のスマホを借りてゲームとかをやって、非常に夢中になっているので、俺のだと言って取り上げたりするようなこともあり、まだ、買わせるつもりもない。

市長

その辺のところ、委員や教育長はスマホの所持率とかのデータはありますか。

教育長

昨年、平成28年の6月に足利市教育研究所で調査をしてくれたが、調査対象小中学生3000人のうち、まず小学校6年生は持っている子が約3割、中3は持っている生徒が6割、もう一つさらに調査したのが、夜10時過ぎまで使っているという子ども達、持っていると答えた子ども達のうち、小学校6年生は3割、10時、11時、12時とか使っている。中3が8割、この割合は、私は多いと思う。

委員

実はスマホを持っている台数だけでは実数をつかめなくて、iPod touch という音楽を聴く、機材でも実はラインができる。スマホを持っている数を数えても実数ではありません。それがわかったのはうちの施設の子も達だが、スマホを持たせていないのにラインができる。大人はなぜかなと思う。調べてみたら、iPod touch でもラインはできる。

市長

パソコンでもいいわけだ。

委員

あと、ゲーム機でもできる。3Dとかで、だから、本当の実数はもっと大きいかと思う。ラインでいろいろなトラブルがあるのは、別にスマホを持っている子だけではなく、それを抑えてもどうしようもない。ゲーム機もすべてアプリを取り込めるものは全部ラインができる。大人の方が情報に追い付かないで、いつも子どもに教えてもらっている。だから、これは本当に問題だと思う。小学生もゲーム機でできている場合もあるし、大人はわかっていないと思う。

市長

今は足利市の取り組み、ノースマホDAY的な取り組みはどうなっていますか。

教育長

今、チラシを持ってきたが、警察とかPTAあるいは校長会といったところと申し合わせて、3のつく日はノースマホDAYということで、去年の暮れから動き始めている。実際には、まだまだこれをやったからどうのという成果は難しいと思う。しかし、これは継続して、チラシを配って終わりではなくて、来年から、学校にお願いして、いろんなどころでみんなと呼びかけていこう、そして、スマホについて使い方を我が家も考えようというように動いてもらっている。

委員

家庭教育懇談会もほぼ皆勤だったのだが、分科会に出ささせていただいて、この問題が出ないところはなかった。出た方たちは、一番問題視していたという実感がある。みんな困っている。困っているけれど、家庭だけではなかなか対応しきれない。とにかくトラブルはあるし、時間も支配されてしまうし、家庭のコミュニケーションがなかなか取れないもとなっていたり、憩いの場がで

きていなかったりということで、なんとかしたいというのはみんな多くの方がおっしゃっていた。だから、基本的には、その家にあったルールづくりをしていくのがいいとは思いますが、それを待っているとうまく進んでいかないので、教育長がおっしゃったように3のつく日のノースマホDAY、これをあまり複雑にしないで、とにかく継続して広めていく、足利ではこれをやっているという実感をもたせていくことが大事かなと思う。出したら、もう終わりではなく、今後、これをだれもが知っている。親だったら、子どもだったら、だれも知っているというふうにもっていけるといいのかなという気がする。友達からくると、すぐ返事をしなくてはいけないとか、そういうことで、多分困っている子も随分いると思う。そうでないと仲間外れにされるような感覚が出てくる。だから困っている大人、困っている子どもがたくさんいるわけで、そこに切り込んでいかないといけない。さっきデータで、中3で8割、10時過ぎまでやっている、これはすごく大きいことかなと思った。だから、まずはスマホで、これに関してはいろいろな問題があることはわかっていることだから、P連とか学校とか協力して3のつく日はノースマホDAYから、まずは始めないということで大したことかなと思う。

市長

P T Aとか、お父さん、お母さんたちと何かの雑談の折に、スマホの話題で危機意識はありますか。

委員

やはりそれはある。スマホが自由に使えるようになると当然、昔では得られないような情報がダイレクトに子ども達にも伝わってきてしまうし、そういうところは保護者のみんなも驚いているというか、そこまでダイレクトにいろいろな情報を見てはいけないのではないかなというような話が出ていたりする。あとは今、ラインといった話で言えば、委員がおっしゃったように非常に使い方を早くレスポンス（対応）しないとイケないということが大前提になっているので、やってる限りは、おそらく連絡が来るので離せなくなってしまうところが、スマホの文化としてなっている。そこを変えていくこととして、このノースマホDAYというのは非常にいいと思う。実際の親御さんたちがもっと困っているのを表に出して、それに対して具体的にどうのということも考える機会があればいいと思う。問題意識はみんな持っているのだが、解決方法がこれだというのがないのが、一番の問題かなと思う。

市長

スマホに関して先進的な取り組みをしているところとかの情報はありますか。

事務局

資料で言いますと、宇都宮市のものがある。

市長

宇都宮ね、この下野（新聞）の記事。

事務局

使用しなかった中学生が4割くらいいる。

市長

この前、ニュースでスマホを脇に置いておくだけで集中力が切れるとやっていた。いつも入ってこないか気にしているから、集中力が落ちる。

委員

広め方はいろいろあると思うが、先進国の流れとしてはインターネット依存症という言葉があって、やはりこれは放っておくと病気になってしまうから、みんなで気をつけようという。要はちょっと、脅しになるのかもしれないが、本当のことなので、これはあなたが止めようと思っても止められない、スマホがあって、スマホの使い方を間違えていると、本当にインターネットでつながっていないと不安になってしまうという病気になる。そういうことを保健の教科書では、まだそこまで行っていないのかもしれないが、流れとしては多分、そちらが一番自然に広まっていくのかなと思う。若いお母さんと触れていても、お母さん自身がネット依存症的なところを見せてしまう。

市長

そうだ。このもらった資料で、「お母さん、スマホ見ていないでこっち見てよ」なるほどと思った。委員さんのお子さんはいずれスマホを持ちたいと言うだろう。その辺、何か作戦を考えていますか。

委員

いや。作戦はまだない。

市長

されてから考えるようか。

委員

ルールとかがあって、何時以降は見せないようにするとか、そういう具体的なところで動いているというのを、インターネットとかでも見たりする。そういうのを参考に実際の使い勝手を見ながら、対応していくのしかないのかなというのと、やはり子どもの方はすごく使えるようになってしまうので、それを上回るような知識をもって、それが親にわからないでやっていることのないようにしなくてはいけないなと思う。

委員

海外では Wi-Fi を切ってしまうそう。スマホを預かるのではなくて、つながらなければよい。そうすると、家を出てしまうという危険性もあるが、Wi-Fi を切れば、家の中が安全になる。そうすれば大人もやらない。親もやはり依存になっていることもあるから、親もできないという一つの知恵なのかと、向こうの方も考えていると思う。

委員

教育懇談会の分散会に出ていて、そのとき参加されてた方は危機感をもっていたのだが、お母さんが赤ちゃんを抱いていて、お乳をやって、赤ちゃんを見ないで、スマホを見ている。先ほど家庭の役割で出てきたけれど、これって愛情とか、そういうのが、注がれてないということだと思う。今、そこまで来ているので、そうするとお母さんになるあたりから、定期検診とか、そういうときに何か親子で直に話をする大切さとか見つめ合う大切さとか、そういうのを教えていかないと、さらに大変な時代になってしまうのかなと思った。そうすると、もう福祉関係とかと連携をしながら生まれる前の段階から、子どもを産む前、産んだ後に必ず通る何か月検診とかある。そういうところで何かくさびを入れていくような、保健師さんがちょっと語ってくれるとか、そういうチャンスをやうまく使って歯止めをする必要がある。もう小学校とか中学校の段階ではなく、やっていかないとという気がした。

市長

よくレストランとか行っても、座っている4人ともスマホをやっている。何のためにやっているのか。

委員

子ども同士でもそれぞれゲームをやっている。家族でそうなものね。

市長

何のために食事に来たのかなと思う。

委員

列車に乗るとみんなやっている。

市長

ここで話題を変えて、この家庭教育懇談会の資料をもらって、一つ衝撃的だったことが家庭教育で大切だと思うことの項目で、学習習慣を身につけるといのが非常に少なく5件しかなくて、この筑波では0、三重では1とか、矢場っこが2とか、葉鹿が1だが。これは家で少しでも学習習慣を身につけさせるということの意識がこんなに低いのかなとちょっと思ったのだが、その辺について教育長はどのような感想をもちましたか。

教育長

これは調査の仕方もあるのかなと思う。多分いくつか項目があり、その中から順番に選びなさいという。そうすると、思いやりだなとか。

市長

なるほど、2項目までだから。

教育長

調査の方法もあって、こうなったのかなと思っているが、私としては学習習慣を身につけることは、ぜひこれからも増えてもらいたい。この学習習慣を身につけるといのは、これは先ほどの、実はノースマホと表裏の関係で、家庭での時間をどう過ごすのか、スマホを止めてちょっと家で読書なり、あるいは学校の明日の予習なり復習なりをやりましょうという。実は教育委員会としても今まで各学校でもそれぞれ取り組んでいただいているが、これはもう全的にやりたいなと思ってるところである。

市長

学習習慣を家庭で身につけさせる、そういう親の意識は、委員どういうふうに感じていますか。

委員

なるべく家ではしっかり勉強してもらいたいなどは思うけれども、なかなか勉強しない。そこはそれぞれの家庭で工夫してやっているとは思いますが、なかなか

か思うようにはやっていない。あとはこのアンケートの結果だけ見ると、この学習習慣を身につけるは低いが、多分、それはこの懇談会の内容が思いやりとかそういうところを一番やっていた、その結果だと思う。学習習慣を身につけるのが大事だというプログラミングを変えれば、ここが上がってきたりするのかなと、このアンケートの結果を見ると感じるところだ。学習習慣を身につけることは、子ども達の成長、また将来的なまちの力になるためにも重要だと思うので、こういったところもしっかりクローズアップして、親御さんたちにしっかり伝わるような仕掛けが必要かなと思う。

市長

委員は教育現場にいたわけだが、家庭で学習習慣を身につけさせるには、何をしたらいいのだろう。親がガミガミ言えればいいのか。

委員

この前、ある学校を訪問したら、ロッカーの上にノートがずらっと並んでいた。秋頃、訪問したのだが、一人の子で10冊くらいノートがある子がいた。何のノートかという、家庭学習ノートで4月から11月頃で10冊。フリーのノートで自分のやりたいことを復習だったり、予習だったりやっている。少ない子でも4冊はある。その学級はそういうふうに取り組んでいるようだが、継続してくると、習慣化してくると思う。単純にゲームみたいにノートが増える喜びがあるみたいで、自分は家でこんなに学習してきたんだという実感もできるし、あと、赤ペンで先生の丸やコメントが入っているから、それが意欲付けに続いているのかなと思う。それがある学級だけでなく、いくつか訪問する中で、いくつかの学級で見た。だから足利でも随分やられている。家庭学習を結構やっているのかなと思う。まだ、ただやっていないところもあると思うので、そういう部分を広げていくといいのかなという気がする。

市長

そのノートというのは問題集とかではないのか。

委員

全くフリーのノート。横書きの普通のノートで、その中に漢字を書いてもいいし、計算もできるし、なんか自分で張り付けてもいいし、調べたことを書いてもいいし、作文を書いてもいいし、内容は自由だった。ただ、コメントは毎日入っている。だから、その辺が家庭学習の力を育てていく上では、一朝一夕というわけにはいかないの、着実にやっていく充実感を育てていくことも大事なのかなと思った。

市長

あとは家庭での学習習慣となるとなかなか家でガミガミ言ってもやらない。しょうがないから、塾に行かせた方が手っ取り早いみたいになっているのか。

委員

それで言うと、学力で福井県の前に見たデータでは、福井県では学習する所が家族団らんの所で、みんながいる所でやる。個室ではなくて、やっているのをみんなが見ているし、兄弟が何人かいれば、一緒にみんな夕方とかやっているという。それが日常化している、みんながやっているから、兄弟がやっているからという感じで、だからそういう形でなんとか広がる。

市長

それは意外だ。

委員

福井は家庭に祖父母がいたりするので、そういう雰囲気ができているのか、やはりそういう部分が学力を押し上げているのだと思う。あとは、家庭学習をやらせる前の、委員からお話のあった、足利の子の学童、放課後児童クラブとか、家に帰らないで、そういうところに行っている子がかなりいる。そうすると、宿題とか家庭学習はどうなるかという、そこでやることになる。家に帰る頃には眠くなっていて、そうすると、そこの学童なり放課後クラブの存在というのが、家庭学習を習慣化する上でかなり重要になる。そこに働きかけていく方法もあるのかなと思う。

委員

知り合いが学童をやっていて、やはり学童に宿題を持ってきていて、親はもう学童から帰ると、ごはんを食べさせて、お風呂入れて、寝かして、なるべく学童で宿題を終わしてほしいって言う。しかし、勉強をみることもできるが、子どもはいっぱいいるし、子ども達にとっては、学童は勉強の場ではないし、自分たちの立場がどういう立場になっていいのかわからないという質問を受ける。それぞれの学童さんが指導方針を決めているようだが、結構悩んでらっしゃる、ここは勉強の場なのか、生活の場なのか、その辺で現状を見ると、いつか調べていただいたが、1年生の5割くらいでしたか学童に行っている。これは最初が大事なので。

市長

学童の担当はだれなのか、健康福祉部なのか。

事務局

健康福祉部になる。

市長

その連携はできているのか、情報交換とかは。

事務局

これから放課後学習の事業が来年度から始まるので、学童との擦り合わせをしなくてはならない。

市長

そこは大事だ。学童によってやり方が違うのか。

事務局

私もいくつか見てきたが、学童によって、学習を教える学童もあれば、ここは遊びだからと全くやらないところもある。

市長

そういう切り口の問題意識はなかった。

事務局

学童はシルバーの人とかがいる。先生ではないので、そうすると教え方もまちまちで、子ども同士がこうやって見せっこしてしまったりする。

市長

そうになってしまう。翌日、先生がどこでそんなこと教わってきたんだってなってしまう。

事務局

だから良し悪しがある。働く親にとってはいいのかもしれないが、学習を教える立場からすると、もしかしたらマイナス面もあるのかもしれない。

市長

学童の位置づけって、1年生の5割が行っているとなると、無視できない。

事務局

桜小とか学童と放課後学習、これをうまくやっている例などもある。そういうことを、来年度は、かなふり松事業で増やしていく。

市長

勉強になる。市長になってからずっとある問題意識なのだが、要するに、この場に出てくる、お父さん、お母さんはおそらく心配いらぬ。先ほども輪を広げる、いかに参加しない人をどう巻き込むかのような話が担当課長からもあった。まず、参加者にはどういうふう呼びかけて、どういうふうに来てもらっているのか。

事務局

地区の自治会の経由で、それから育成会、PTA、学校が主なところ。そのどこかで声がかかった方が来ているのかなと思われる。一応、一般の方、どなたでも参加していいということになっている。

市長

でも、おそらく参加してくれるお父さん、お母さんは意識の高い人だと思う。

事務局

だと思われる。PTA活動されていて、そこで来られる方が多い。

市長

その辺、委員はどう思うか。

委員

間違いなく意識の高い人しか参加していないと思う。だから、家庭教育通信はこれ両面の印刷1枚だが、非常に内容は濃いし、こういった家庭教育懇談会の内容を見ても、参加された方の満足度が非常に高いことを考えると、やはり一番こういったことに保護者が新鮮に頭に入ってくるのが、小学校に入学したときの最初とか、投げかけるタイミングが大事だと思う。私もPTAをやっていて、入学した最初の学年部会とかとても新鮮な感じで盛り上がっているのですが、6年生ぐらいになると熱心な生き残りみたいになってしまうのが私の実感である。だから、一番最初のときに、こんな素晴らしい内容が出ているわけだから、これをすべての小学校で、親ができてから親になるわけではなくて、親もしっかり教育するためには勉強しなくてはいけない。一番いいタイミングでいい内容を教育委員会として、しっかり伝えるということが大事かと思

う。

市長

鉄は熱いうちに打て。そういうとてもフレッシュなところに、こちらから出かけて行って、家庭教育懇談会にしてしまうという、そのくらいの意気込みのほうがいいのではないか。そういうことって簡単ではないのか。

委員

私は一番いいのは一日入学体験のときだと思う。入る前だと100パーセント、お母さんが集まるそうなので。

市長

一日入学体験。そういう機会を捉えて工夫したほうがいいと思う。

委員

まず、私が委員になって家庭教育懇談会のご案内をいただいたときに、平日の夜で、「私、子どもを置いて行けないな。」と言ったら、託児をつけてくれた。しかし、それでもあまり集まらなかった。子どもを置いていけないし、子どもも一緒にいいというアナウンスもないので、平日の夜に行ける方はおじいちゃん、おばあちゃんがいる家庭かなと考えたり、子どもをご主人が見てくれる人なのかなと思ったりした。平日の夜の時間帯でだれに来てもらいたいのかなと思った。

市長

なるほど、そうやって、確かに鉄は熱いうちに打て、そこは大事だ。ちょっと検討してもらいたい。一日入学体験のときに、出前家庭教育懇談会にしてしまうのはどうか。

事務局

出前講座みたいなものを、家庭教育支援チームに登録されている方が学校とか保育所に出向いて、ワークショップや講座をやっていただいている。今の一日入学の話だと、三つくらいの小学校で、一日入学はだいたい同じ日にやるので、相当な人数がいなくてできないので、問題点はあると思う。

市長

試行的でもいいので。なるほど、おもしろい。

委員

それはそれで一日入学の機会を有効に使う一つの提案かと思うが、私が出て感じるのは、参加してくださっている方は地域のリードしてくださる方が多い。自治会、育成会、民生委員、PTAの役員、学校も随分若い先生も多く出てきているようになって、学校も地域とうまくやっていきたいという意欲を感じる人が多い。一つは家庭教育懇談会の役割として、地域の力、中心的な方々の力を、地域を支えていく力へと団結していく。先ほどの感想の中で、「話をしているうちに団結心のようなものが生まれた」「皆さんの熱い思いが伝わってきた」「定期的に懇談会が開催できるといい」とか、「世代間交流の場になって、この交流が広まっていけばいい」とか、矢場川は毎年やろうという、ある意味その地域の核を作っていく。そういう場がなければ、話し合う場がない。参加した人がいろんな場で地域に広げていって、地域の力を高めていく原動力となっていくという部分もあるのかと思う。だから、なかなか参加できない人もたくさんいると思うが、出た人が次に何かの機会に広げる、あるいは井戸端会議みたいなところでも伝えていくとか、もちろん、プリントも今年から始めて、いくらかでも知っていただくという点で有効だと思う。感想を見ていると、「和やかな雰囲気でもいい時間を過ごすことができた」とか、「このような機会をまた設けてほしい、楽しかった」とか入っているので、やはり少人数で話し合うことがなかなかよかったのだと思う。話し合う時間を長く取っていると思うので、前よりは、何人かで話しができるということで、地域を高める力になっているのではないか。だから、矢場川のような例が次々に出てくればいいのかと思う。

委員

私、それはすごく大事なことだと思っていて、もうそれはコミュニティースクールが担っているところで、家庭教育という名前ではなくて、地域のことだと思うので、ぜひ地域の力で子ども達を育てていってほしい。

市長

地域とオーバーラップしている。この教育委員会が持ってきてくれた高知県の香南市の赤岡小学校の資料に、岡西博文校長が校区の中学校教員や地域住民らとの宴席に参加した際、中学校の生徒の素行の悪さが話題になった。岡西校長が「昔のように子どもを地域で叱ってほしい」と呼び掛けたところ、地元に住む年配の男性に「子どもが怖い」と返された。なるほどと思う。

教育長

私も先ほど、いろんな方が集まる場所にこちらから出向いていく方法も確かにあると思う。もう一つは、皆さんから出た、参加した方が自分のところで止めないで、それをいかにお隣さんに、あるいは何か一緒に少年野球をやっている親同士の集まりのときに、この間こんな話があったよと話題に上げてもらう。3人につなげれば、またある方は3人にといい感じで、草の根運動というか、それがすごく大事ななという気がする。それぞれの自治会の会長さんとか、集まってきてくださっている、そこで止めないで、皆さんに市民力ではないけれども、どんどん広めていってもらおうという、それを望んでいる。行政も市民の皆さんもというような感じをもっている。担当課で用意した分散会の中にも必ず、つながりとか、コミュニケーションとか、人との関わりとか、どの地区もその言葉が必ず出てくる。出て来てくださった方はそういうことが大事だと思ってらっしゃる。それをぜひ広げていきたいと思う。ただ、何て言いますか、私は家庭のことを深入りするの難しいと思う。身内ではないものだから、他人なので、だけど広めることを通して、せめて顔見知りにはなる。顔の見える関係というか、一声かけられるような関係にできるという、みんなでそんな関係を作りたいと思っている。

市長

あのスマートウェルネスの取り組み、筑波大の久野先生が熱心で、取り組みの研究、首長の勉強会の主導役をやっているのだが、どこかでアンケートを取って、健康に興味のない方も出てきた理由を尋ねたら、4割がロコミ、インターネットで知ったということだった。市のホームページで知ったのは15%くらい。その数字を聞いて、なるほどと改めて思ったのだが、少しの輪を広げる観点でいった場合、ロコミの力を地域が高めていくと、多分食わず嫌いだったお父さん、お母さんたちが一回おいでよということで、あまり興味がなかったが、行ってみたら、結構みんな熱くておもしろかった、そういうことかなと思う。

教育長

まさに素通り禁止で。そうありたいなと思う。

市長

スマホと家庭学習習慣とその輪を広げるの三つの視点からお話しを皆さんからいただいたが、あと残り5分くらいだが、この際、別の角度でもいいので、皆さんからどうか。

委員

先ほど、委員からもあったが、やはり子どもは乳幼児期が大事だと思う。ここは教育委員、教育の場だが、教育委員として健康増進課の方々とつながって、本当に健康増進課の方々がよくやってくれているので、一緒にこういうことを目指していこうと統一できればいいなと思う。足利は考えてもらって、保健師さんも地域別に出向いてもらい、母子手帳も以前までは市民課だったと思うが、私も言わせていただいたが、最近は健康増進課の方でも出していただけのようになった。なぜかという、一度、健康増進課に行っておくと、子どものことで何かあったときにはここに来ればいいのだと、こんなに親切にしてくれる保健師さんがいるんだということで、すごくつながりやすくなったと言われた。健康増進課の保健師さん達とも一緒に、子どもの第一スタートで妊婦さんにも関わっていただいているので、そことの連携も大切だなと思っている。

市長

皆さん、他にどうか。

委員

今も話が出たが、教育委員会議だと教育委員会の中の事柄でやるのだが、福祉関係とか、例えば児童家庭課とか、そういう部分との連携、訊くと答える方がいない。だから、ここの会議ではそこまで入っているという理解だが、児童家庭課あたりで、結構家庭の情報を持っていると思う。特に、困り家庭、母子家庭、福祉家庭、両親がいても困っている家庭の情報が、そういうところに支援というか、支援センターから支援が入る場合があると思うし、行政内である程度、共有できる形にさせていただいたほうが、風通しがよく、ことがよく運ぶかと思う。特に関係する部署があると思うので、父子家庭、母子家庭、いろんな家庭を回ってもらっている方がいるわけなので、そういう情報とかで困っている人にどういう手を差し伸べたらいいのか、相談員さんだけではなくて、関係する部署で共有して手が出せるところは出して支援する。

市長

急がば回れで。

委員

子ども食堂とかも足利で始まったようだが、やはり毎日暮らしていくことが大変な子どももいると思う。給食があるからいい、生きていける。夏休みとか困る、そういう子ども達もいるので、温かいごはんだったり、温かい味噌汁とかをいただいたりするだけで、心が救われるのではないかな。そういうつながり

ができて、みんなが救われる形になればいいなと思う。

市長

今度は事務方でも、そういう視点で健康福祉部とやった方がいい。今日も児童家庭課、健康福祉部がいればよかった。呼ぶことはできるのか。

事務局

それは関係課として。

市長

今度はそういうテーマ設定で健康福祉部長以下に来てもらうといい。他にはあるか。健康福祉部との連携のことは早速指示をしたいと思う。あと、放課後児童クラブの位置づけ、1年生の5割が行っている。知らなかったなので、これは大事だ。そこもまさに健康福祉部との話になる。あと、試行的にお父さん、お母さんが熱いときに設定するような工夫がでないかどうか。この3点は、私の方からも担当部署によく指示をして、また議論させたいと思う。そういう意味では、この3点が浮かび上がっただけでも大変有意義だったと思う。そろそろ時間なので、本日の議事を終了する。

○閉会